

平成25年度 みえ森と緑の県民税 事業別評価表

判定の種類とその内容及び点数

内容	判定	点数
取組が特に優れており、模範となり得る	A	3
現状の取組みが十分であり、継続が妥当である	B	2
現状の取組みに改善が必要である	C	1

平均値による判定基準	
$2.5 \leq X \leq 3.0$	A
$1.5 \leq X \leq 2.4$	B
$1.0 \leq X \leq 1.4$	C

判定の集計方法

1. 各委員の判定(A～C)を点数化(上表)します。
2. 10名の委員の点数を合計し、平均値をとります。
3. 平均値(右上表)により、判定(A～C)を決定します。

1. みえ森と緑の県民税基金積立事業

評価の視点	平均点	判定
有効性	2.40	B
効率性	2.30	B
公益性(波及度)	2.20	B

2. 災害に強い森林づくり実行計画策定事業

評価の視点	平均点	判定
有効性	2.30	B
効率性	2.20	B
公益性(波及度)	2.20	B

3. みえ森と緑の県民税普及啓発促進事業

評価の視点	平均点	判定
有効性	2.40	B
効率性	2.30	B
公益性(波及度)	2.20	B

4. 電算管理事業(税導入に係る県税務システム改修)

評価の視点	平均点	判定
有効性	2.40	B
効率性	2.30	B
公益性(波及度)	2.30	B

5. 賦課調査事務事業(税導入準備費交付金等)

評価の視点	平均点	判定
有効性	2.20	B
効率性	2.30	B
公益性(波及度)	2.20	B

平成25年度 みえ森と緑の県民税 事業別評価表

1. みえ森と緑の県民税基金積立事業

県担当課 市町名	事業名	評価の 視点	評価委員会の評価		特記事項
			判定	平均点	
1 三重県 みどり共生 推進課	みえ森と緑の 県民税基金 積立事業	有効性	B	2.40	★森林・里山整備等の必要性は、近年災害も多発していることから県民も納得していると思われる。★事務的な作業(システム改修)であるため、必要であったと考えられる。★本税を活用することで、当初描いた三重の森林がどう変化するかをグランドデザインを進捗を県民にわかりやすい情報で伝えるなど、期待したい。★1年間で県民周知を高めたことを特に評価する。 ★事務的な作業(システム改修等)であるため、必要であったと考えられる。★三重県は山地が多いので十分な対策が望まれる。
		効率性	B	2.30	
		公益性 (波及度)	B	2.20	★このコメントで、公益性がどの程度図れたのかを評価することは難しい。どの程度周知をし、どの程度県民が本税による森林管理・保全の必要性及び可能性を理解したのか、把握できるとよい。★森林関係者以外での認知度は低いと思われる。

2. 災害に強い森林づくり実行計画策定事業

県担当課 市町名	事業名	評価の 視点	評価委員会の評価		特記事項
			判定	平均点	
1 三重県 治山林道 課	災害に強い森 林づくり実行 計画策定事 業	有効性	B	2.30	・この指針に則り、溪流部における危険木の除去等にとどまらず、渓岸部における樹木の抵抗機能や山腹部における樹木の根系支持機能の向上にも着実に取り組まれない。 ・作成した計画及び森林指標の具体的な内容を期待する。 ・近年の天候不順による災害対策は急務である。 ・事業の実行にむけて必要な事業であったと考える。 ・事業の実施に当たっては、業界団体の言うなりに陥らないよう、県が主体性を発揮して欲しい。 ・委託先として適切であったと考える。
		効率性	B	2.20	
		公益性 (波及度)	B	2.20	・調査結果が有効に活用されることを期待する。 ・事業が実行されることで公益性が高まると考えられる。

3. みえ森と緑の県民税普及啓発促進事業

県担当課 市町名	事業名	評価の 視点	評価委員会の評価		特記事項
			判定	平均点	
1 三重県 みどり共生 推進課	みえ森と緑の 県民税普及 啓発促進事 業	有効性	B	2.40	★税の導入に向け必要な作業であったと考える。★個人・法人とともに、税の必要性について理解が得やすい。★1年でこれだけの周知を図られたことを特に評価する。しかし、62.7%の数字に満足することなく、認知度・理解度をより高める方を継続していただきたい。★各市町で事業が開始された際の、その取り組みに対する理解や満足度などの把握もすずめていただけるとよい。
		効率性	B	2.30	★少ない費用で目標以上の広報活動ができている。地域に出でいくことが重要。★数値としては目標を上回っているものの、税の目的や意義、使途について関係者以外ではさほど知られていないと感じられる。また、イベント参加者には関係者の動員が少なく、イベントの開催方法、内容、周知については一考が必要。★広報は実施することが目的ではなく、そのことによって県民が本税、本事業にどの程度関心や理解を持つようになったかが重要なため、広報と併せてその効果を把握していただけるとよい。
		公益性 (波及度)	B	2.20	★回数(量)ではなく質への言及がないと、公益性や波及度が判断しがたい。★森林関係者以外での認知度は低いと思われる。★多様な機会での広報によって、本事業の認知度は高まっているようだが、継続すると同時に、事業実施の成果効果を県民に共有する場の創出などを進めていただけるとよい。

平成25年度 みえ森と緑の県民税 事業別評価表

4. 電算管理事業(みえ森と緑の県民税導入に係る県税務システム改修)

県担当課 市町名	事業名	評価の 視点	評価委員会の評価		特記事項
			判定	平均点	
三重県 税務企画 課	電算管理事 業(みえ森と緑 の県民税導入 に係る県税務 システム改修)	有効性	B	2.40	★税の導入に向け必要な事業と考える。 ★トラブルなくシステムが稼働したことから適切であった ★どの程度の改善効果があったのか、定量的な記述が欲しい。★トラブルなくシステムが稼働したことから適切であった と考える。
		効率性	B	2.30	
		公益性 (波及度)	B	2.30	

5. 賦課調査事業(みえ森と緑の県民税導入準備費交付金等)

県担当課 市町名	事業名	評価の 視点	評価委員会の評価		特記事項
			判定	平均点	
三重県 税務企画 課	賦課調査事 務事業(みえ 森と緑の県民 税導入準備 費交付金等)	有効性	B	2.20	★市町による広報が有効に行われたかどうかは確認は取れているのたろうか ★広報をした結果、県民からどのような反 応があったのでしょうか。事業への理解、税の使い方への理解を得るためにも、県民とのコミュニケーションの機会は増やす 方向で進めてはいかでしょうか。★税の導入に向け必要な事業と考える。 ★市町村の反応や意見を受け、市町村が実施しやすい環境づくりを継続して実施していただけたらよいです。★県で 一括の方が効率が良い。★県から市町に配布したのち、市町での配布・周知作業について(どこまで浸透できたか)把握 していたか? ★チラシは分かりやすかった。 ★今後の本事業の発展のために、PDCAがまわるしくみが必要ではないでしょうか。★森林関係者以外での認知度は 低いと思われる。
		効率性	B	2.30	
		公益性 (波及度)	B	2.20	